

<式辞>

あずまの山々が冬ごもりから雄姿を現し、春の訪れを感じる、この佳き日に、このような形で第73回卒業証書授与式を挙行できたことを、対応していただいた皆さんに感謝したいと思います。

ご列席いただけなかった保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。そして、卒業生30名の皆さん、卒業おめでとう。卒業生の皆さんは、先輩方が築いた伝統を継承しつつ新しい風を吹き込みながら様々な活動をリードしてきました。

小学校入学直前に経験した東日本大震災。南三陸・気仙沼での野外活動では、震災学習を通して、自然の力の大きさとそれに立ち向かい、力を合わせて復興に取り組んでいる人達の姿を目の当たりにしました。

「自分は他の人たちのために、何ができるのか」皆さんは、ユネスコの掲げるSDGsの理念を理解し、takeよりgiveの気持ちを優先する人達です。

先月行われたユニセフの募金活動では全校で21,519円が集まりました。その中の7割は三年生の皆さんからの募金です。中には、貯めていたお小遣いを有効利用したいと、1万円を寄付した人がいます。1万円は赤ちゃんの命を守るポリオワクチン600人分、飢餓に苦しむ人達の栄養食300食分になります。このような時だからこそ、その気持ちを大切に持ち続けていってほしいと願っています。

これから皆さんは秋保中学校を巣立ち、高校そして社会へと旅立っていきます。「啐啄同時」という言葉があります。鳥の雛は卵の中では肺呼吸ができません。殻の内側にある薄い膜に毛細血管を張り巡らせてそこで酸素と二酸化炭素のガス交換を行っています。自分で殻を破った瞬間に血液を体の中に取り込み肺呼吸を始めます。ほ乳類がへその緒で親とつながっているのと同じ仕組みです。外からは殻を破る手伝いをすることができません。親鳥は雛の力を信じ絶妙のタイミングとバランスで見守り支えるのです。

これから先、皆さんは今まで以上にいろいろなことを経験することと思います。その経験には、良いことも辛いこともあるでしょう。人生を山登りに例えるなら、学校では山を登るための道具とその使い方、そして山登りそのものの素晴らしさを教えてきました。特に秋保中学校では職場

体験や起業体験に力を入れ、できるだけ多くの山の素晴らしさを伝えてきました。これから皆さんがどんな山を目指し、そのためにどんな道具を使いこなしていくか、自分で考え、自分で決めていかなければなりません。たと思いき通りにならなくとも次に生かすことができれば決して無駄にはなりません。秋保で培ってきた感性と技を信じ、挑戦する気持ちを大切にして困難を乗り越えていってほしいと思います。「啐啄同時」これからも秋保中学校は皆さんが夢を追う姿を応援していきます。

保護者の皆様、かけがえのない大切なお子様をお預かりし、私たち教職員は、時に厳しく諭しながら、時に悩みに寄り添いながら、教育活動に取り組んで参りました。これまで本校の特色ある様々な教育活動に対し、ご理解とお力添えを賜りましたこと、教職員を代表し、心から御礼申し上げます。

また、本日ご臨席いただけなかった来賓の皆様、そして地域の皆様のご厚意に支えられ、卒業生は、本日、秋保中学校を巣立っていきます。これからは、生まれ育ったこの秋保のため、「ふるさと秋保」を支える一人の若者として、国内、そして世界の人々に「秋保の魅力、秋保の良さ」を発信し、秋保の発展に貢献する人材として活躍していつてくれることと思います。今後とも卒業生の前途を温かく見守り続けてくださいますようお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆さん一人一人が、校訓に示された「敬愛・体力・向学心」の精神を胸に、秋保中学校出身であることを誇りに、そして、I'm AKIUとして、持続可能な魅力あふれる未来を見つめ、笑顔で、元気に、自らの人生を切り開いていくことを祈念しまして、式辞といたします。

令和2年3月7日

仙台市立秋保中学校

校長 千葉 慎